

令和5年度 第8回教育委員会 議事録

1 日時

令和5年8月24日（木）9時00分から12時05分まで

2 場所

津市教育委員会庁舎 4階 教育委員会室

3 出席者

津市教育長	森 昌彦
津市教育委員会委員	西口 晶子
津市教育委員会委員	富田 昌平
津市教育委員会委員	田村 学
津市教育委員会委員	山口 友美

事務局

学校教育・人権教育担当理事	伊藤 雅子
教育研究・情報教育担当副参事	山下 尊仁
教育研究支援課担当主幹	伊藤 信介
教育研究支援課担当副主幹	本多 史明

森教育長

令和5年第8回の教育委員会を開催します。本日の議案はお手元の事項書のとおり、議案第33号です。議案第33号については、津市教育委員会会議規則第16条第1項第4号の規定に該当するため非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

はい。

森教育長

それでは、議案第33号につきましては、非公開と決定します。

ただいまから、議案第33号 令和6年度使用小学校用教科用図書
の採択について、津市教科用図書調査研究委員会からの調査研究結果
を参考に審議します。皆様には、「令和6年度使用小学校用教科用図

書調査報告書」を、事前に御覧いただきました。また、本日は、対象となる教科書見本も用意しております。必要に応じて御覧いただきたいと思っております。

なお、今回の教科書採択をより適正に行うために、対象となる種目の見本本についての調査研究結果を十分把握したいので、津市教科用図書調査研究委員会事務局と調査員の代表者からの説明を求めます。

それでは、まず、調査研究委員会事務局から調査研究の経緯等について報告してください。

事務局（山下副参事）

調査研究の経緯について御説明いたします。

5月10日に第1回調査研究委員会を開催し、調査実施項目を決めるとともに、当該調査研究委員会に、小学校の管理職及び教諭及び保護者代表からなる調査員を置き、調査研究を行うことを決定いたしました。また、開かれた採択に向けて、調査研究委員会の委員に2名、調査員会の調査員に3名、保護者の代表から参加していただいております。調査員は、各種目の見本本について調査し、調査結果を調査報告書にまとめました。

そして、7月24日に第2回調査研究委員会を開催し、調査員代表からの調査報告を受け、その報告をもとに協議し、調査研究結果としてまとめたものが、「令和6年度使用小学校用教科用図書調査報告書」でございます。

なお、調査及び研究においては、三重県教育委員会において作成された「令和6年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料」を参考にしました。また、教科書展示会において、来会者からいただいた御意見等についても、参考といたしました。以上です。

森教育長

はい。ただいまの報告についてご質問ご意見はございますか。

委員

（質問、意見なし）

森教育長

それでは、ただいまから「令和6年度使用小学校用教科用図書調査報告書（選定案）」の報告及び協議に移りたいと思います。本年度は、13種目とたくさんの教科について御協議いただくことから、各種目別に別紙1のスケジュールに沿って御協議をお願いしたいと思います。教科書の見本本は事務局が運びますので、手に取って御覧ください。

では、まず、算数から御協議をお願いします。事務局が選定案と見本本をお配りしますので、しばらくお待ちください。

【算数】

森教育長

それでは、採択候補の報告をお願いいたします。

調査員代表

それでは、算数の採択の選定案の報告をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

算数について、6者の教科用図書の見本本を調査検討いたしました。どれも検定を通過しておりますので、工夫された教科書でした。全体としまして、今、求められている個別最適な学び、協働的な学びで、また、主体的対話的な深い学びの実現に向けた配慮が、東京書籍にしっかりされているという点、それから、ICT、今1人1台のタブレット端末の活用を学校でしておりますけれども、それを活用した算数の学習の充実を図るという観点、また造本上の工夫について、東京書籍が一番配慮されていきました。あと、他の教科書会社もいいところはあったんですけど、総合的にみた時に東京書籍が全ての調査項目について一番配慮がされている、優れているということです。それでは具体的に選定案様式2の方で説明をさせていただきます。

東京書籍の新しい算数が最も適切であり、その理由として、学習指導要領に定められている教科の目標を達成するための工夫について、例えば、2年生以上の巻頭に学びの扉というのが設けられております。問題を解決する時に大切なことが、問題をつかもう、自分の考え

を書き表そう、友達と学ぼう、対話的なところですね。振り返ってまとめよう、振り返りということね。授業で大切にされています。問題解決の過程を学ぶことができるように配慮されています。

ここで、東京書籍の5年生の上の教科書を手にとっていただけますでしょうか。今、申し上げた、学びの扉というのが、教科書を開いていただいて3ページ、に学びの扉がございまして、次めくっていただくと、左側に問題をつかもうとか、自分の考えを書き表そうとか友達と学ぼうというのがそれぞれ具体的な問題と並行して書いてあり、どのように学習を進めていくかということがわかりやすくまとめられています。

教科書のこととして、単元の前半は既習事項を活用して新しい計算、図形に対する見方、考え方、計算方法、公式などを丁寧に記載し、単元の後半は記述をシンプルにして自力集団解決を促している。ですから、例えば三角形の学習をするのであれば、三角形のところか1つの単元ですけど、その初めの方では吹き出しを使っていて、子どもの言葉で、これこれこうするとこうなりまして、こういう風にできるよねという結論まで書いてあるんですが、後半になると何々とする、・・・と言って、その先は自分たちで考えて、その・・・というところを補うような表現となっています。だから、自分で解決すること、今求められていることに配慮がされているということです。

では、3番。問題解決の過程を可視化するとともに、自己の考えと他者の考えを比較検討することができる、今日の深い学びというのが設けられています。5年生、今お手元にある5年生の上の87ページをご覧ください。開いていただくと真ん中上のところに今日の深い学びというのが書いてありまして、四角形の4つの角の大きさの和は何度になりますかという課題から始まりまして、実際の授業の黒板とか、それから子どもたちから出てくる考えを次のページ、88ページでこう取り出して、そこに最初冒頭にありました、問題をつかもうとか、自分の考えを書き表そうとか、友達と学ぼうとかいうのを再度ここで思い出しながら振り返りながら、こういうふうに学習を進めるんだねと確認することができるようになっています。それからまた88ページの下の部分に、こうたくんという子どもが発表しているところがあるんですけれども、実は間違っている答えです。その間違っ

ている答えについて、どこが違ってるんだろうとまた考えてみる。ですから、こうたくんの考えのどこが違うの、答え違うはずなんだけどな、なんでだろうということをみんなで考えると、あつという気づきがうまれます。

それから、4番。既習事項を活用して問題を解決する算数の手法を活用するために同じように考えるというキーワード、それから、さらに理解を深めるためのそれならという言葉、これは算数の学習を進める時に、前の学年で習ったことと同じように考えると一つ上の学年で取り組む新しいことが解決できていくという学習をしますが、それをキーワードとして提示しております。5年生の上の同じ教科書の42ページを見ていただきますと、右上のところに、字が小さいですけども、これ80かける2という計算は習っていますが、80かける2.3という小数のかけ算をするんですけど、整数の時と同じように考えるとできるんじゃないかなと考えます。それから下の方に、そうすると80かける2.3という式はできたんだけど、今度は右下のしほさんがそれなら 80×2.3 はどのように計算するのかなということまで式がたったら今度はさらにそれを深めていくというのがキーワードで、これを繰り返すことによって、算数の学習の進め方がわかっていくという工夫があります。それから全体的に説明しましょうとか、話し合おうという記述が多く、言語能力の育成に配慮されています。

それから6番目、デジタルコンテンツが非常に充実しております。さらに2年生以降ではデジタルコンテンツ、タブレットを使って、問題を解いて答え合わせまでできます。ヒントも出ます。ですので、家庭学習で活用できます。それから例えば、後ろの方にも、決められた時間の外で取り組めるような問題もありますので、早く進める子どもはどんどん更に問題を解き進むことができることで、個別最適な学びにも配慮されています。

また、めあて、まとめについては、今の授業で必ず教師が提示しているんですけど、そういったことに配慮されています。東京書籍の教科書は、めあてがめあてと書いていなくて、はてなマークで示されています。他の教科書会社は、めあてとはっきり書いてあります。どちらがいいのかなという話をしたんですけど、実はこのめあてというの

はクラスの子どもの実態とか、それから、学習の進み方によって教師がある程度考えて提示します。そうすると教科書で最初から、めあてと書いてもらってあると、ここをめあてにしたいというところと、教科書に先生、めあてと書いてあるじゃないという話になります。それから仕様上の便宜のところでは、1年生の教科書がこのA4版で書き込み式です。5年生のもの比べると大きさも違いますし、閉じ方がホッチキスで机の上に置いた時にパッと、しっかり開けるような作りになっております。これは1年生の子どもの机の上に開いて、この教科書の上でおはじきを動かしたり、それから数を書き入れたりするのに、大きさとかそれから書き込む分量について、非常に配慮されています。前回の教科書採択の時には、東京書籍だけの先進的なところでした。これが今回、ほかにも数者同じような体裁にしてみましたけど、書き込む分量が東京書籍の方が、一日の長があると思っております。それから最後に、子どもが使うにあたって重さを測ってみました。1年生から6年生までの教科書、全部の重量。意外と違いがありまして、東京書籍は全体の6者の中で軽い方から2番目だったんです。あと一番軽かったところはどこかというところ、大日本図書でした。大日本図書は全体としては軽いんですけども、どの学年も、1年生以外は全部一冊なんです。東京書籍は1年生だけは1冊ですけど、各学年2冊に分かれていますので、結果的に、子どもが使うにあたっては、6年生も1冊ですね、2年生から5年生まで2冊になっておりますので、ランドセルの中身を軽くしようとか、そういうふうな取組を教科書自体の重さ、それから分冊の仕方も配慮されています。

こういったところを総合的に考えまして、東京書籍の新しい算数が最も適切な教科書になると判断いたしました。よろしく願いいたします。

森教育長

ありがとうございました。ただいまの報告につきましてご質問、ご意見はございますか。

富田委員

ありがとうございました。中学校の教科書で数学を選んだときに言

われたのが、子どもたちが、それぞれに自分のペースでいろいろ問題を解いていけるという余地があったほうがいいんだというような話がありました。小学校の算数の教科書を選ぶ際には、何か中学の数学とは違って、こういう部分を非常に大切にしたいということが、もしありましたら教えていただけたらと思います。

調査員代表

小学校の教科書、小学校の算数の学習が、基本的な算数の計算の仕方とか、それから面積の求め方を、みんなで共通理解して、最初の段階では進めていくと、後半になると、いろんな発展的な考え方を、それぞれが出して、話し合いをして、高めていくというところがありますので、東京書籍を見ると、後半の部分はちょっと記述を薄くして、自分たちで考えるようにというところが小学校では必要でないかと考えました。

富田委員

前半後半っていうのは、学年のですか、それとも単元のですか。

調査員代表

基本的には単元です。

田村委員

最後にご説明があった。軽いということについて、毎日持って帰る子どもたちにとっては一つ重要な要素かなと思います。軽さを追求するあまり、抜けているとか、ちょっと端折り気味になってるとかいうことはないから、ご提案いただいていると思うんですけど、ページ数としてどうなのでしょう。

調査員代表

ページ数ということと言いますと、やっぱり軽量化していることで、少し少なくなっているとは思いますが、必要な内容をきちんと網羅して、そして、学習内容や考え方は身につけるように配慮はきちんとされているということで、大丈夫です。

田村委員

はい、わかりました。いっぱい文字数とか使って説明すればいいというものではないと私も理解します。問題は伝わるかどうかで、ここにもありますように、実際に使う児童が使いやすいというか、もう一つ言えば、担任される先生がいかに教えやすいかということが特に重要かと思うんですけど、そういう点から見ても、提案されている業者さんの教科書が総合的に一番優れているというふうに調査員の方が判断されていることですよ。

調査員代表

はい。主には子どもの方の学習を通じてご説明はいたしました、最初の学びの扉とかですね。それから、今日の深い学びというところを1の(1)と(3)でご説明しましたが、そういうところが例えば、長いこと昔の教え方で慣れた教員とか、それから新しく採用されて、これから学ぶ教員も学習指導要領が変わって、スタイルが変わってきてますので、教師にとってもその子どもたちの学び方こうだよとわかります。それがこういう学びの扉とか、今日の深い学びにまとめられているのと、それから実際に、教科書を進めていく中でも、子どもの発言とか、ちょっと違った考えとか、そういうのを出しながらやっていくという学習が今されていますので、教師にとってもいいと思います。

田村委員

私の個人的な考えなんですけど、子どもたちというのも大事ですけども、やっぱり担任される先生が使いづらい教科書では絶対子どもたちに伝わらないと思うので、そこは私として非常に重要にすべきかと思えます。

山口委員

東京書籍ということで今、話していただいたんですけども、他の啓林館さんとか、学校図書さんのなかで、全部見ていただいたと思うんですけど、ここは優れていたという部分、もしあれば教えていただ

けませんか。

調査員代表

わかりました。啓林館の4年生の上をご覧ください。小学校では、角度の学習をするんです。角度の大きさ、何度とか。それを学習する時に、実は分量器を使うんです。その分量器というのがお店で買ってくるいろいろな分度器があるんです。角度を測る部分がこの丸いところ、この下の線のところで測ったり、一つ上のところに線があって、そこで角度を測ったり、それから右から見たり、左から見たりという表し方が違ったりするんです。啓林館は、そこに配慮してあり、巻末に全員共通の分度器をつけています。ですので、こういった巻末の付録というか添付している教材とか、こういう器具について配慮はなされているというのが啓林館でございました。それから、学校図書は、間違いを見つけるとか、そういったキーワードで学習をするというのがありまして、ちょっとお待ちください。例えば。学校図書の2年生の下の教科書をお出してください。28ページの左下をご覧ください。ここでは、こういう出し方をしている。7かける6の答えがわからなくなった友達がいます。どのように教えてあげますか。式を使ってお話ししましょう。こういう形でわからないこと、それから途中にもありましたけど、間違いを見つけるとか、他よりもこういう間違いとか、違っているところを見つけるとか、そういう課題の設定が、あちこちに、学校図書は見られるという工夫がございました。代表的なところで2つ申し上げました。

森教育長

よろしいですか。それでは、ご質問、ご意見がないようですので、採択にかかる協議に入りたいと思います。調査員代表、ありがとうございました。

森教育長

はい。それでは、教科書採択についての意見をお願いします。

富田委員

僕自身もやっぱり東京書籍が現在も使っておりますし、今日ご説明していただいたような点でも、あまり細かいことはわかりませんが、非常に読みやすいというか、そういう印象はすごく他に比べてもありません。ただ、なかなか算数は、こう比較したときに何がどう違うのかというところがわかりにくいところもあったりしますけれども、やはり中学校数学の場合ですと、中学校の数学が必ずそうというわけじゃないでしょうけれども、どんどん子どもたちが数をこなしていくということは割と重視されるということかもしれませんけれども、小学生の場合は、子どもたちが自ら進んでこの問題を解きたいと思って、そこから気付きがあって、対話していきながら、だんだん深めていくことに、やりがいというか、謎かけのように進めていくかたちに單元ごとになっているのかなと、聞きながらわかったかなというところだと思います。私は東京書籍でいいんじゃないかなと思いました。

森教育長

はい。他、ご意見ありますか。

田村委員

私も報告を受けて、調査員の報告書を見せていただいても、あらゆる項目で、あの総合的に見て一番いい評価、そもそも深く見ていただいた分析が出てますし、先ほどの説明で確認した内容をみましても、やっぱり子どもにとっても教える教員にとっても、東京書籍でよろしいかと思います。

山口委員

説明を聞かせていただきまして、先生方にとっても、よろしいでしょうし、活用しやすいということですので、東京書籍でよろしいと思います。

西口委員

東京書籍の教科書を見ていると、他の教科書と違って、紙面いっぱい使って、必要な情報を上手に網羅して載せている感じがするんで

す。ですので、戻りたい場所がここだよとか、それから、先に行くんだったらここだよとか、丁寧に記述されているので、東京書籍で採択してほしいなと思いました。

森教育長

それでは、東京書籍の「新編新しい算数」を令和6年度使用小学校用教科書として採択するという事で決定しますがよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

それでは、津市教育委員会といたしまして東京書籍の「新編新しい算数」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することを決定します。

では、続きまして、理科についてご協議をお願いします。事務局が選定案と見本本をお配りしますので、しばらくお待ちください。

【理科】

森教育長

おはようございます。調査員代表、よろしく申し上げます。

調査員代表

お願いします。5者の教科書見本本全てを学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、啓林館の「わくわく理科」が、最もふさわしいと評価いたしました。その理由として、特に優れていた4つのポイントについて説明させていただきます。

まず、ポイント1つめです。様式2の1つめの丸印の部分、児童が意識的に理科の見方・考え方を働かせられるよう、吹き出しのセリフにマーカーを引き、児童の資質・能力の育成をサポートできるよう工夫されています。これは主体的・対話的で深い学びへつなげるための手立てです。具体的にご説明いたしますので、3年生の教科書をご準備くださいませ。3年生の教科書、20ページをご覧ください。20ペ

ージです。虫眼鏡を使って、たねを観察してみましようとなります。そして、右下の登場人物のセリフには、一部、緑色のマーカーが引いてあります。このマーカーが理科の見方・考え方を示しています。学習指導要領では、問題解決の課程における理科の見方・考え方として、3年生では比較することが大切であると示されています。この場合は、たねの大きさや形、色をただぼくぜんと見るのではなく、似ているところと違うところに着目しながら比較するという視点を子どもたちに示すことによって、意識的に理科の見方・考え方を働かせられるよう工夫しています。他の学年においても同様で、4年生では関係づける、5年生は条件を制御する、6年生は多面的に考えると、それぞれの学年で大切にすべき理科の見方・考え方をこのような緑色のマーカーで示し、子ども主体の問題解決によって、深い学びの実現に繋がるよう工夫されています。

次に、ポイント2つめです。様式2の3つめの丸印の部分、ICT機器の活用に適した活動にはICTマークを示すとともに利用例を紹介し、活用を促す配慮がなされています。また、二次元コードを読み取ることによって、資料動画やインタラクティブコンテンツ、映像を見ながら解答するデジタル教材を利用でき、効果的に学習を進め、思考力・判断力が育つよう工夫されています。これらは情報活用能力の育成に向けた活動の充実をはかるため」の手立てです。例えば、植物の成長について観察する活動ではICTマークが示されており、写真を撮っておくとあとで見返すことができると、使う目的や利用例が示されています。理科では実験や観察などの直接体験が非常に重要ですが、写真や動画を残すことによって、その変容をただ記録するだけでなく、スローで再生して動きを確認したり、みんなで見返して感動を共有したりできます。何のためにICTを使うのか、その目的を明確にし、学びの中での効果的なICTの活用につながるよう工夫されています。また、3年生55ページをご覧ください。風とゴムの力のはたらきという単元の最後に、やってみようプログラミングというコーナーがあります。ここでは、二次元コードを読み取り、学習した内容をふまえて、駐車場ゲームを楽しみながら、簡単なプログラミングを体験することができ、無理なく段階的に、論理的思考力を育成できるよう工夫されています。また巻末184ページをご覧ください。日常

生活に関連した映像を見ながら端末上で回答するデジタル教材W a C B T、わくわくC B Tチャレンジなどのデジタル教材を利用することができます。回答したあとすぐに結果や解説を確認したり、理解できるまで何度も見返したりすることができますので、子どもたちそれぞれのペースで学習を進め、思考力・判断力を育成できるよう工夫されています。

そして、ポイント3つめです。様式2、5つめの丸印の部分、津市や紀宝町の地形などの写真が使用されており、児童が親しみを感じ興味を抱くきっかけづくりにすることができます。また、単元末の問題でわからないものがあつた時に、二次元コードからスマート解説を視聴することができます、家庭学習の際にも自ら学習を進められるように工夫されています。これらは興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための手立てです。

5年生の教科書110ページをご覧ください。一番下に、津市香良洲町の三角州が、川のはたらきによる色々な地形の例として掲載されています。また115ページには、紀宝町の熊野川が土砂を運ぶ様子をとらえた写真が掲載されています。これらのように、子どもたちにとって身近な地域の写真が教科書に載っていることは、その事象に親しみを感じ、興味を抱くきっかけづくりに繋がります。さらに、単元末には、要点をふりかえって整理したり、習熟度を高めたりするためのページがありますが、わからない問題があつた時には二次元コードを読み取り、解説動画を視聴することができます。このように、子どもたちが、それぞれの理解度に合わせて、個別最適に学習したり、宿題として自宅で取り組んだりする際にも、自ら学習を進められるよう工夫されています。

最後に4つめのポイント、様式2の2番使用上の便宜、1つめの丸印の部分です。まず、実験器具の使い方を動画で確認することができます、視覚的に理解し、主体的に実験に取り組むことができます。また、教材の配列において、子どもたちの思考の流れに沿ったものになっています。さらに、教材となる植物を栽培するうえで、津市の気候に最も適した単元構成になっています。これらはすなわち、内容の配列などについての工夫です。

例えば、4年生では、1学期最初の単元春の生き物で、春の動植物

の観察を通して気温の変化に着目し、次の単元、天気と一日の気温でお天気について学び、そこから雨の降る様子につなげて次の単元地面を流れる水を学習するなど、生物分野から地学分野へ、無理なく移行しています。3学期も同様に、ものの温まり方、水のすがた、水のゆくえと、学んだことをすぐ次の単元で生かせるよう工夫されています。さらに、単元の配置が、津市の気候に一番合ったものになっています。理科において、教材となる植物を栽培し準備することは大変重要で、授業の時に、実験や観察にふさわしい花や実の状態になっていなければ、子どもたちの直接体験につながりません。啓林館の場合、教科書の順番通りに進めれば、ほぼ問題なく教材を準備し授業を行うことができます。例えば5年生最初の単元花のつくりの学習の中でへちまの種をまき、次に、植物の発芽と成長の単元に入ります。そして、2学期が始まって花から実への学習をするころには、へちまは成長し、花や実の観察ができるようになっていきます。

今回、我々調査員は子どもたちの理科離れについても議論し、教師自身が、理科に苦手意識を持っていることも原因の1つではないかと考えました。その解消のためにも、多くの教師が扱いやすい教科書であり、子どもたちの直接体験を支えることができる、啓林館の「わくわく理科」が適切であると評価いたしました。以上です。よろしくお願いいたします。

森教育長

はい。ご質問ご意見ありますか。

田村委員

ちょっと興味を持ったのでお聞かせ願いたいんですけども、さきほどの写真で香良洲町、あるいは紀宝町、それともう一つは栽培の関係が津市の気候に合わせて教科書どおり進めれば大丈夫ということですが、特に香良洲町の写真というのは、津市の教科書だからということで、例えば他の市町の場合、もっといえば他県であれば、同じようなデルタ地形の写真が載っているのでしょうか。

調査員代表

こちらの啓林館の会社は、本社が大阪にあるということで、やはり大阪近辺の写真が多く使われているように感じます。それから、津市の気候に合っているという面でも、まずは大阪近辺の学校で使われることを想定しているのかなと思います。

田村委員

出版社の方で意識的に津市での採択を狙って作っているということではないんですね。強調されていたので、何か独自の取組が啓林館さんにあるのかなという、ちょっと関係ないことを聞いてしまって申し訳ないです。

富田委員

理科の場合は、他の教科と比べても写真というのがすごく大事になるんだと思うんですね。子どもたちに体験があったら、もちろんいいんですけども、それができない場合に、二次的に体験できるようなリアリティのある写真が活用されるのがいいのかなと思うんですけど、その点でいったときに、まあ啓林館が優れているんだと思いますけども、他の教科書と比べて、例えばこの単元のこういうところがこういう写真を啓林館が使っているという例がありましたら教えていただきたいです。

調査員代表

検定に通っている教科書ですので、5者ともに写真を非常に工夫していて、良いものが使われているなと感じました。ですので、啓林館の写真が素晴らしいというのは、ちょっと実は見つからないのですが、身近なところの写真が使われているというポイントが子どもたちの興味関心につながるのかなと思っています。

田村委員

実験とか、なかなかその学校でするには、体験させにくいものがあるのかなと思いますけど、そこでデジタル教材とか、今で言えばVRというのが結構、これから入ってくるのかなという気がするので、ここでも啓林館さんのデジタル教材、バックアップ的なものを評価されて

いるようですけども、具体的にどのようなものですか。

調査員代表

はい、例えば3年生でしたら、昆虫について調べる学習で、いろいろな昆虫を見ることができます。それと実験などをせずに資料を視聴しただけで済ませてしまうということはないようにすることも大事なかなと思うんですが、啓林館の場合は実験をするときの手順ですとか、気をつけなければならないところの動画を視聴することができるわけです。結果については、視聴がついておりません。他者さんですと、実験全て結果まで全部が視聴できるものがあるんですが、それだと実験しなくても、見たら、タブレットで読み込んで見たら終わりというふうになってしまいがちです。啓林館の場合は、その実験をするまでのやり方、気をつけることを視聴し、で実際に実験を試みようというふうになっていたと思います。あと実験自体については、NHK for Schoolにつながる二次元コードがたくさんございますので、そちらでも見ることができます。

田村委員

デジタルコンテンツというのは写真だけではなくて動画で提供されるというのはいいですね。それが大きいですね。やっぱり写真で見るよりも、わかりやすいですし。

調査員代表

例えば、観察しにくい月とか星を観察することは、なかなか難しいのですが、視聴する動画の教材も充実はしていると思います。

田村委員

他者と比較しても、やっぱり啓林館さんの方が。

調査員代表

啓林館さんもいいですし、もう1者ととてもよいところがありまして、そこも非常に良かったです。図鑑的な意味の写真の美しさはそちらの方が美しい。正直、美しい。大手の出版社さんですので、いろんな映

像を持っているのではないかと思います。ですが、どの先生でも使いやすいかというところになりますと、やっぱり啓林館がいいのかなと感じました。理科の専門的な知識を持っている人だったら、その教科書を上手に使いこなすことができると思うんですが、他者さんの教科書だとちょっとレベルが高すぎて使いこなすのは難しいと感じました。

富田委員

理科の教科書は昔と比べると、子どもたちの思考のプロセスというところに寄り沿った授業の展開になっていて、授業もしやすくなっているし、子どもたちもそれを手がかりにしながら学びを深めていく意味ではいいと思うんですけど、一方で、かゆいところに手が届き過ぎているというか、なんとなく教科書がでしゃばりすぎという印象もあったりするんですけども、その辺について、いろいろ教科書を見られるなかで感じたことはありましたでしょうか。

調査員代表

他者の教科書を今回見せていただく機会に恵まれて、本当に今おっしゃられたような、ちょっとそこまでしなくてもいいんじゃないというのは、確かにあるかなと思いました。啓林館さんの場合は、あまり踏み込みすぎないところはあるのかなと、ちょっと入り口のところまで、いろんな教科との横断的な学習の入り口のあたりまでは連れていってくれる。あとはやってみようっていう感じの発展的な内容、身の回りのことにも関連づけながら、そういうことにも繋げているという意味で、ちょっと強みがあるのかなと感じます。

西口委員

啓林館はどの学年も、最後のほうに、理科につながる算数の窓というのがあって、理数離れが叫ばれているなか、理科から見た算数のいろいろなものを使っていくことがまとめて書いてあって、こういうのは他の教科書にありましたか。

調査員代表

はい、他者にもございました。やっぱり算数との繋がりが非常に大きいところがありますので。ないところもありました。

山口委員

このワクワクDチャレンジというものがコンテンツということで、授業のなかでも利用されながら進めていくということですか。

調査員代表

そうです。授業でもできますし、例えば宿題ですとかね、発展的な学習で使うことができるかなと思います。こういうことに慣れていくことも、子どもが持っている力を表現する方法を教えてあげないといけませんから。こういうことも重要であり、家庭学習で実際にして、C B Tに慣れることも大切だと思います。

山口委員

教科書を見せていただくと、その実体験が豊富な児童と、初めて見る児童との違いというのが教室の中にも起こってくるでしょうし、経験の差っていうのが一番出るところではあるのかな、僕知ってる知ってるというのが多くあるのかなと思います。家庭でも十分検索もして動画も見られる環境にある児童がいるでしょうし、全部を出していないということは私もいいと思いましたが、先生方のまた努力が必要になってくるかなと思いました。

森教育長

前も同じこと聞いたかわからないんですけど、理科離れの話がされました。子どもの理科離れてはなんで起こっているのという話を考えた時に、自分は教員が理科離れしていると思うんです。要は先生が理科を教えるのを嫌がっているのです、そんな先生に教えられた子どもたちが理科を好きになるわけがないじゃないですか。本当だったら、一番先に教科担任制にすべきなのかなというのを思いますし。今どれくらい、やっているんやろうなと思って、しかも、教科担任制と言っても、多分ですけど、イメージしている教科担任制ではなくて、担任が放り出して他の人に持ってもらうという教科担任制じゃないですか。

だから理科がすごく専門でとか、好きで、子どもたちにこんなことを教えたいという人が教えてるんじゃないかと、なんか担任の先生が、いろんな実験とかいろんな準備が大変なので、理科は他の人にやらせてという、自分は国語、算数教えるみたいな、そういう学校がやっぱ多いでしょ。ここに一番やっぱり大きな問題があるのかなと思います。先生方が理科を教えることに対して、大変さをちょっと省いてあげる中で、理科は面白いよなというようなことに持って行かないと、理科離れは進むばかりだなと思うし、実際にだれに理科を教えてもらってるのと思った時に、決して理科を好きで教えてる人がまあどれだけいるんだろうかと思った時に、それではなかなか理科好きにならないって思いませんか。

調査員代表

本校でもそうですが、やはり、専科の講師の先生にお願いをすることが多いのかなと思います。理科の堪能な教員を何人か私も知っておりますが、だけど今は校内の事情で理科を持っていないんですということが結構あって、もったいなという方はたくさんいます。ですので、この教科書を見て、実験でうすい塩酸と書いてあるけど、うすい塩酸をどうやって作るのって、そこからわからない先生がたくさんおられるんですね。なので、ここで実験の動画は視聴できますが、教師が見て、実際に事前に、まず見て予備実験をして、子どもたちが安全にできるということをするのが大事であると考えました。

森教育長

では、以上で意見と質問がないようですので、採択に係る協議に入ります。調査員代表、どうもありがとうございました。

森教育長

それでは、教科書採択についてご意見をお願いします。

富田委員

はい、啓林館で文句なしかなと思います。理科離れの話は盛り上がるわけですけど、小学校の先生ですら、そうなんだと改めて思って、

保育者の間ではこういった理科離れは散々言われますね。物化生地あるのに、生物学しかやってないじゃないかと。栽培活動はすごく熱心なんだけど、不思議な物理的な現象にしても、物語的なオチにいつてしまっ、結局それを科学的に深めようというふうなところに行かないというのがだいたいの流れで、その辺はやはり保育者の意識というのを変えていつて、知識や技能みたいなものも、身につけることができるような、いろいろやっていかないとという話になります。幼児教育も含めてその辺の話題を共有しないといけないと思いました。

西口委員

私も啓林館で、出てくる吹き出しにラインが入っていると、目を向けにくい子どもたちにも配慮された教科書だなと思いましたので、啓林館でいいと思います。

田村委員

私もこの調査員の報告や提案の内容のやり取りでもさらに確信させていただきましたので、提案どおり啓林館でよろしいかと思います。

森教育長

ありがとうございます。それでは、啓林館の「わくわく理科」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいでしょうか。

委員

はい。

森教育長

はい。ありがとうございます。それでは、津市教育委員会として、啓林館の「わくわく理科」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定します。

森教育長

それでは、続きまして、図画工作についてご協議をお願いします。

事務局が選定案と見本本をお配りしますので、しばらくお待ちください。

【図画工作】

森教育長

それでは、図画工作の採択候補の報告を調査員代表。お願いします。

調査員代表

はい、おはようございます。失礼します。令和6年度から使用する図画工作の教科用図書の採択にあたって、開隆堂と日本文教出版、2者の教科書見本本を学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、日本文教出版の「図画工作」の教科書が令和6年度使用する教科書として評価しました。その理由を今から4つのポイントについて説明させていただきます。

1つめに、図画工作の特質を生かした見方、考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫、また、言語能力や論理的思考力の育成を図るための工夫として、教科書の紙面構成で児童の活動場面の写真を見やすく配列し掲載しており、児童が発想や構想を深めながら、主体的に造形的な活動に取り組めるような紙面になっておりました。掲載写真に、児童の活動中の対話の様子も多く使われ、吹き出し等で活動のヒントとなる投げかけもされており、活動の中で、自然と対話が生まれてくる紙面構成になっていました。さらに巻末には様々な対話を生かした鑑賞方法を紹介しており、児童の対話活動を促す構成になっておりました。

2つめに学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫としてそれぞれの題材でめあてが色別によりわかりやすく示されていました。また、それぞれの題材で大切にしたいめあてのヒントとして投げかけの言葉がそれぞれの題材に記載されており、教科書を通して学習の見通しをもてる紙面構成となっております。

3つめに情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した習活動の充実を図れるようになっていました。今回の教科用図書ではたくさんの

コンテンツを二次元コード、QRコードを使って読み込むことができるようになっていました。2つめの視点である学習の見通しをたてたり、学習したことを振り返ったりすることも個々のタブレットでコンテンツを読み込み、例えば用具の使い方を実際に映像で見て確認したり、活動の流れを把握したりとすることができます。動画で用具の使い方を見ることで安全に使うために気をつけることなども一つ一つ確認することができるようになっておりました。学習の途中でも児童一人一人がすぐ確認することができるので、児童の学習進度に合わせて活用することもできると考えられます。またタブレットで撮影したものを生かして簡単に制作できるデジタルコンテンツやアートカードというものを使った鑑賞、ものづくりに様々な形で関わる人たちからのメッセージなども動画で見ることができ、情報機器活用の広がりを感じる教科用図書となっていました。

4つめに今日的課題として、SDGsを意識しての題材や事例が多く取り上げられていました。全体的に、自然を生かした題材が多く提示され、自然の美しさや自然を大切にすることを学んだり、また地域の図画工作に関わること、日本文化についても多く触れられ、地域の文化や伝統文化の良さを味わえたりできる資料が多く挙げられていました。このようなところからSDGsを意識した題材、資料が多く掲載されています。では実際に、教科書を見ていただきたいと思います。

1、2年生下の教科書の20ページをご覧ください。やってみたいと思うような導入の言葉や、表情豊かな児童の活動場面の写真、あるいは活動のめあてにつながるヒントの投げかけが掲載されております。また、20ページの下段にあるように、気をつけよう、振り返り、片付けなどのコメントが書かれており、安全のことや、材料を大切にすることなど、気をつける点がわかりやすく書かれております。続いて、22ページ、23ページをご覧ください。同じように、気をつけよう、片付け、振り返りと書いてあって、その横に作り方ということで二次元コードが示されておるんですが、この二次元コードを一人一人のタブレットで読み込むことで、どんなふうに材料を使うか、材料の特性、あるいは1、2年生であれば、はさみの道具として、はさみの使い方、気をつけること、そういうことについても見るすることができます。はさみについては、右利き用、左利き用も提示され配慮されてお

ります。53ページをご覧ください。53ページには自然に関わる題材として、身近なもので豊かな形や色との出会い、環境を大切にしておくような資料がたくさん提示されておりました。続いて56ページをご覧ください。巻末には、材料と用具の引き出しとして、材料についての説明や用具の使い方がまとめられております。もちろん、先ほど説明させていただいた通り、動画を見たりすることもできますが、紙面でも必要な時に見て仕方や安全について確認することができます。

最後に5、6年生下の38ページです。教科書美術館として児童の発達の段階にあわせて、身近な伝統文化や日本各地の伝統工芸について紹介するページも設けられています。このように、表現と鑑賞を関連づけながら学習し日本の文化について大切にしていきたいということも学べるような教科書になっておりました。

以上、日本文教出版を選んだポイントについて報告させていただきます。

森教育長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問ご意見ありますか。

富田委員

日本文教出版と開隆堂を比較したときに、ページの下の方に、開隆堂には、あわせて学ぼうということで、他の教科との関連のことが、日本文教出版にも右のほうにありますけど、教科の名称が書かれているだけで、具体的な内容についてはふれられていないんですね。そのことについていかがでしょうか。

調査員代表

日本文教出版の方は、何の授業につながっていくかっていうことが書かれているので、おそらく指導者の中で、音楽の時間のこういうところにつなげていきたいというふうな形で考えていくと思うんですけど、指導用の教科書にはこの部分が書かれていると思います。そこまで確認できてなくて、申し訳ないんですけど。教科名しか書いていないので。

富田委員

教科名だけなんですけど、ページを見ると、こういう意味で道徳と関係があるのかなとか伺えるような記述があったりするのかなと思ったんですけど。

調査員代表

先ほど、見ていただいた1・2年生下の教科書であれば、34ページは、音楽作りということで、楽器を作るようになっていて、音楽のこの部分と指示がなくても、音楽の時間に使いながら楽器をひいてみようとか、イメージできるのかなというふうに思っています。

富田委員

音楽はわかりやすいんですけど、例えば47ページの道徳とのつながりとは。

田村委員

15ページの体操はもっとわからない。

調査員代表

体操については、図工という特性から、体全体を使いながら表現をすることにつなげています。例えば、カチコチになるよりも、体操しながらリラックスして、体全体でそのいろんな形や色、構想などを考える一つの手立てとして体操があります。このQRコードの体操というのはそういう意味合いです。

西口委員

47ページの5・6年生下のつながる学びで道徳ということで、版画でつながっていく私の思いを棟方志功が書いていて、その偉人の動きとか、棟方志功の生涯とか、日本は昔から版画があるとかということにつながっていくから道徳かなと思ったんですが、これだとわかりにくいですよ。つながる学びのところで教科だけの提示と、さらに詳しく書いてある開隆堂との違いというのは議論にはなかったんです

か。

調査員代表

はい、そこまでは。こちらの資料の方には、先ほどの1・2年生の47ページの道徳については、やはり友達と一緒に活動しながら制作するというふうなことを一緒にできたかな、どうなのかなというふうに考えると、そういうのを道徳の教材でもう一回振り返って、今回の図工の制作で、みんなで一緒に作ったけど、どうだった、うまくいったということにつながっています。

西口委員

学校で教科を教えていると教科単独ではなくて、教科横断していることがいっぱいあって、今回こう記述が出てきたことは教える側としてすごいありがたいなと思いますので、これが前の教科書にこういうのがあったのかどうかは本当は知りたいんですが、それは置いて、報告に出てきているということは大事にしてほしいと思います。

富田委員

2者比較したときに、やはり日本文教出版の方が紹介されている作品だとか、図画工作の写真ということがより大事ですので、その点が争点にはなってくると思うんですけど、2者を比較した時にいかがでしたか。

調査員代表

見たときの見やすさをまず調査して、日本文教出版のほうが、大きさ、色合いが見やすいのではないかという意見が出されました。例えば、1・2年下の新聞のところ、20、21ページと開隆堂の30、31ページ、見た時に活動の流れとか、日本文教出版の方が見やすいのではというような議論をさせてもらって、他のところの部分も結構表情豊かに撮られてるんですけど、写真の大きさであったりとか、バランスであったりとかという部分では、文教さんの方が見やすいんじゃないかというような話が出ました。

森教育長

これ2者なので比較したら簡単だと思うんだけど、比較している二重丸と一重丸がついていますが、多くの委員さんに指摘されている他教科との関連を図った学習については、両方とも丸になっているが、今の話だと開隆堂が二重丸だよね。今の話聞いていたら、どっかの指導書には書いてありますよではなく、教科書に書いてあることが大事ですよ。子どもが見たときに、この教科、こんなふうに繋がっているんだと見えるのか、道徳と書いてあっただけでは子どもにはわからない。他なんかは、例えば見やすいのは確かにそうだと思うんだけど、見やすいだけで判断したんだったら、まあ、そうなんかなと思うけど、そうではないと思うので、もう少しそのなんていうかな、日文はここがもう本当に決定的に開隆堂とは違うんや、いいんやというところがいまいちあんまり伝わってない。

調査員代表

まず1つは、日文の方がこのデジタルコンテンツの量からいくと、児童作品の量が非常に多いです。子どもたちが他の子どもたちの作品を見ながら自分の作品を作る意欲ですとか、想像をうまく伝えるということにつながるのかなと思います。それと、デジタルコンテンツについても、例えばタブレットで撮ったものを、すぐ動画にすることができて、作品としてできるようなものが日文にはあります。ICTを活用しながらという部分に関して、調査委員会の中で話題となりました。あと、日本文教出版さんの方には、自然を扱う題材が非常に多く、SDGs、自然や環境を大切にしていくという部分や、もう一回身近なものから、いろんな形の良さというのを見直して、そういうふうな題材が非常に多く取り上げられています。

田村委員

あのすいません。意地悪な質問で申し訳ないんですが、この報告書でいうと、単に二重丸という表記だけだと、日文さんの方が同じか優れているという結果しか出てないんですけども、こういうところでは表しきれなかったような開隆堂さんの方が先ほどのその繋がる学びのところなんか、たまたまあの富田先生が気づかれた点だと思います

けども、他にもその惜しいというようなところはどんなところがあったんでしょうか。もし、あればですけど、特にそういう点はありませんでしたというのであれば、それでかまいませんけど。

調査員代表

学習のめあてでは、キャラクターを使って、子どもたちがわかりやすくとか、そういうふうなことは開隆堂さんの方にされていたので、そういう部分では、より子どもにわかりやすいのかなと考えております。

田村委員

指導書が後から出てくるとね、現場の先生がどういうふうにするのかを見て、もっと見えてくる部分があるようでしたけれども、その今、子どもたちに持たす教科書を選定する段階では、子どもにとって教える教員にとって教えやすいという感覚が得られたのは、日文さんのほうでよろしいですね。

調査員代表

見ながら、活動を想定できて、それぞれ子どもたちが活動を思い浮かべるのは様々ですので、一つに縛られず、最初の見た時に発想が浮かぶのは、開隆堂さんでは浮かばないかなという意見はありました。

森教育長

はい、それでは採択の協議に入りたいと思います。調査員代表、ありがとうございました。それでは採択について御意見をお願いします。

富田委員

2者の比較をした時に、やはり文教出版の方が、取り上げている内容や構成もなんだか子どもたちがわくわくするような、遊び心がくすぐられるようになっていると感じました。具体的には、1、2年生の上巻のところの箱で作るところなんですけど、文教出版では50ページ、51ページで、開隆堂では52ページ、53ページのところで、

文教出版で取り上げている箱で作った素材の方が、動きがあるんですよ。それは粘土の場合でも当てはまって、1、2年生の下巻の方の文教出版の36、37ページと、開隆堂の方の1、2年生下巻の18、19ページを見ると、やっぱり文教出版さんは動きをいかに表現するかというふうな形になっている。開隆堂さんは、動かない静かなものを制作するという、その辺の発想の豊かさを引き出すようにした仕掛けが、やはり文教出版の方が選んでいる素材、その作品の内容に違いがあるかなということを感じました。ですので、文教出版の方がいいんじゃないかというふうに思います。

田村委員

調査結果報告書だけ見ると、すごい僅差のように見えるんですけども、今、富田先生が言われたことを私も比較すると素人目に見ても日文さんのほうが明らかに子どもが興味をひくような構成になっているなというふうに思えるのと、もう1つあった新聞のところでもやっぱり、伝わり方というのが全然違うなというふうな印象を持ちましたので、繋がるには課題はありますけども、日文さんの方が採択にふさわしいというふうに提案どおりでよろしいかと思えます。

森教育長

いいですか。はい。それでは、日文の「図画工作」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

それでは、津市教育委員会として、日文の「図画工作」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定します。

ここで、10分間の休憩をとります。

【家庭】

森教育長

では、再開します。それでは調査員代表、よろしく申し上げます。
採択候補について、家庭科、よろしく申し上げます。

調査員代表

よろしく申し上げます。ちょっとコロナの後遺症で咳き込むことがあるので、お聞き苦しいところはあるかも知れませんが、よろしくお願いたします。

今回、2者の教科書見本本全てを学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、東京書籍の「新編新しい家庭5・6」の教科書が、令和6年度に使用する教科書としてふさわしいと評価いたしました。その理由として、大きく4つのポイントについて報告させていただきます。

まず、選定案の主な理由項目1の3つめについて、13ページをご覧ください。活動1の話し合おうのところでトライシートが掲載されています。これは、ステップ1の学習の導入部分で自分たちの考えを可視化し、思考を深め整理できる思考ツールとなっています。これ以外にも、20ページのジャガイモを使った料理の学習において写真を参考に調理方法を考えるためにYチャートを使用したり、68ページの身の回りにある布製品の学習では、手縫いかミシン縫いか区別するためにベン図を使用したり、ご飯とみそ汁の学習の献立調べで、料理にどのような食品が使われているか考えるためにフィッシュボーンを使用したりするなど、たくさんの思考ツールが活用されています。自分の考えがまとめることが苦手な児童にも活用しやすくなっています。

また、調理実習の材料、手順、調理のポイントなど実習の計画を立て、内容がわかりやすくなる調理実習シートがあります。その他にも各大題材の最後にある「活動を深めよう」にワークシートがあり、タブレットなどの写真を簡単に貼り付けることができ、学びを記録し生活に生かすことができる工夫もされています。さらに調理、裁縫やミシンの使い方等の実習動画や、石狩鍋、ほうとう、てこねずし等47都道府県の郷土料理、食品の栄養素や旬の時期、保存方法等の特徴、商品についているマークについてなど、調べ学習に活用できる図鑑があり、個別最適な学習に生かしたり、児童自身が苦手な箇所の予習や

復習に生かしたりすることができるとともに、家庭での実践につなげていくことができます。

次に、理由項目1の4つめについて、4ページをご覧ください。全ての学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行うことができる構成として、「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップを取っており、見通しが立てやすくなっています。各ステップには「めあて」と「ふりかえろう」が子どもたちにわかりやすい言葉で明示され、主体的に無理なく学習を進める工夫がされています。

理由項目1の5つめについて、6、7ページを御覧ください。「成長の記録」「5年生のまとめ」「2年間のまとめ」で学習のふり返りの場面が設定されており、学習したことの自己評価と「次へのチャレンジ」を記入していくことで学びの記録ができ、自己の成長が感じられるようになっていきます。また、「次へのチャレンジ」を「生活を変えるチャンス」に結びつけることで、より家庭生活に生かせる工夫がされています。

理由項目2の2つめについて、136ページ以降の巻末資料「いつも確かめよう」を御覧ください。初めての実習が安心して安全に行えるように、多くの内容について、動画だけでなく写真でも記されています。用具の使い方について、わかりやすくなるように手をのせて練習できる実寸大の写真を掲載しています。右利きと左利きの両者を表示しており、動画においても右利き左利きの両者についてすぐに見ることができます。また、写真とイラストを合わせた表記もあってわかりやすくなっています。特に野菜のいろいろな切り方については、写真とイラストがあることでよりわかりやすくなっています。

理由項目3について、12ページや36ページ等をはじめとする教科書全体のイラストや写真に幼児や高齢者、障害のある人々、外国の方々との関わりを通して、共生の視点に気づくことができるように配慮がなされ、グローバル化に対応しているとともに、料理や洗濯、洗濯を干す等家庭内の仕事について、性によって役割が固定化されないような工夫がなされています。また、イラストや写真の男女の服装や発言内容についても性別による役割が固定化されないような工夫がなされており、ジェンダーを含む多様性に配慮されています。教科書全

体において、児童のプライバシーに配慮して表現しており、特に家族の内容では、様々な家族形態があることをイラストで示し、どれもかけがえのない家族であることが指導しやすいように配慮がなされています。以上のことから、東京書籍の「新編新しい家庭5・6」の教科書が、令和6年度に使用する教科書としてふさわしいと評価いたしました。

森教育長

はい。ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、御質問御意見ございませんか。

富田委員

小学校で家庭科の授業というのはどういうふうに行われているのかというのをほとんど知らないなので、ちょっと教えていただきたいんですけど。例えば机に座って教科書を開いて学ぶ時間と、調理実習とか、あるいは裁縫だとか、そういう実習的な要素を含んだ活動の時間というのは年間通して、どれくらいの割合ですか。実際教科書開いて学びましょうねという割合がどれくらいあるのか、いかがですか。

調査員代表

自分自身の経験から言うと、どっちかというと、自分は経験の方が多い感じでさせてもらっていたんですけど、経験7割とかになるのかなと思います。もちろん座学をしながら経験してという、行ったり来たりのことをしますので、何割というふうに考えたことがなかったので申し訳ないんですが。もちろん調理実習に至るまでは、先ほど言ったように、どんな工程で、手順でやるかというのをしっかり子どもたちと話しする中で、誰がどんな役割をするとかかそういうのを話し合っただけで調理実習に挑むとか、また、裁縫ですと本当にあの5年生になると初めてのできごとですので、いろんな縫い方があるので、その縫い方、波縫いですとか、半返し縫いとか、一通り練習してから作品を作っていくというような形になるので、7割、6割でという感じかなと思います。

富田委員

その6割から6割5分くらいの中で、調理が半分、裁縫が半分くらいですか。どんなことをやられるのか。

調査員代表

例えば、洗濯の仕方ですとか、自分の汚い靴下を持ってきて、それを水洗いから石けんでやったりとか、そういうのを洗って、たらいを用意してやったりですとか、それを干したりということをしております。

富田委員

どちらかというところ、教科書に基づいていくというよりは、そういう演習、経験を中心にして、その時々資料集的に扱うことが多いですか。

調査員代表

いえ、教科書を中心にやっていくんですけども、その中で、子どもたちに応じたやり方を取り入れたり、地域のことを取り入れたりとかしています。

山口委員

ということは、この教科書を最初から最後まで一応は全部やってしまうということですか。

調査員代表

はい、そうです。どんな勉強してきたか、しっかりみるために東京書籍のなかでは、その2年間を見通して、最初の部分にあるんですけども、先ほど説明をさせていただきました6ページ、7ページで成長の記録ということで、常に振り返らせるということが出来るかなと思うので、子どもたちにとっても家庭の実践に生かせるかなというので、こちらを評価しました。

山口委員

他教科との関連みたいなものは意識しながらされたのはありますか。

調査員代表

まず、33ページを見ていただくと、図画工作の表現と関係させているですとか、45ページにいきますと、社会科になるんですけども、5年生の私たちの生活、食料生産というような項目がありますので、それについての勉強と関連しております。他にも、その資源の確保とごみの処理ですとか、生活習慣の大切さということで、道徳との絡みがあるとか、そのような形で他教科との関連があります。

富田委員

よろしいですか。これも2者しかないので、同じ内容を比較すると非常にわかりやすいのかなと思うんですけど、例えば、味噌汁を作ると思うんですが、東京書籍では48、49ページに味噌汁があって、開隆堂では、50、51ページにあるんですけども、これを比較したときに、どちらがどこがという点はどうなんでしょうか。

調査員代表

調査委員会で話をしていたのは、同じような内容ではあるけれども、教科書というよりも調理実習のワークシートであるとか、東京書籍の方がすごくわかりやすかったかなというのと、あと、流れがすごく東京書籍の方が、わかりやすかったかなというふうな話はしておりました。

富田委員

例えば、今、味噌汁つくりのところかというと、開隆堂さんは大根とかも切ってしまったのが紹介されているんですけど、東京書籍は大根そのものの姿が写真として掲載されているとかそういう話は。

調査員代表

大根の切り方については、東京書籍についても48ページのところで載っていたので、油揚げにしてもネギにしても切り方は同じように

わかるかなというふうに思ったのと、あと東京書籍のいいなと思った部分については実とか、味噌を入れる順序っていうことで、49ページの上の部分に乗っていますので、その部分でも子どもたちにとって分かりやすいかなというふうに思っています。子どもたちは、入れるタイミングと言っても、なかなかその通りに行かないことがあるので、火が通りにくい食品というのがわかりやすく書いてもらっているのでもいいのかなというふうには思いました。

富田委員

はい、ありがとうございます。

森教育長

よろしいですか。はい、ありがとうございました。それでは採択の協議に入りますので、調査員代表、どうもありがとうございました。

教科書採択について、御意見をお願いします。

西口委員

私はずっと開隆堂で育ったんで、一番後ろの表紙を見たら、調理実習する時にこれ便利なんですよね。これが後ろに載っているほうが広げなくていいというような工夫もあるんですけども、全体的に見るとやっぱり、すっきりしているのが東京書籍やなというのがすごく思っています。

田村委員

はい、本当正直、そんな明確にわからない。調査員の報告書から、2重丸と丸の数を比較すると圧倒的に東京書籍ですし、子ども向けなので、フォントの大きさとか、レイアウトとか、工夫されているかと思えば、めくると混み混みに感じるようなページもあるがどちらもなんですよね。どちらかといえば、先ほど説明にあったように、東京書籍のほうが調理の流れの解説がなされているかなという気がしますので、わかりやすいかなと思います。

富田委員

写真を見ると、特に調理は美味しそうに見えるかが大事だとは思っているので、写真は東京書籍のほうが、野菜がすごく新鮮な感じに見えて、みずみずしい感じですが、開隆堂はなんか新鮮そうに見えないのかなと思って。特に料理に関しては写真が大事だなと思うし、手順も具体的でわかりやすいかなと思います。

山口委員

よろしいですか。教科書を改めてまじまじと見ると、フォントの大きさがまちまちなんですね。すごく違うんですね。文字量が多いページと写真が多いページとあって、情報量が違うんだなと思いました。説明のところは大きいんですね。

森教育長

はい、それでは、東京書籍の「新編新しい家庭」を、令和6年度使用小学用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

はい、それでは、津市教育委員会として、東京書籍の「新編新しい家庭」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定します。

【保健】

森教育長

では、続きまして、保健について御協議をお願いします。

それでは、調査員代表よろしくをお願いします。

調査員代表

はい、よろしくをお願いします。

森教育長

それでは、調査員代表から保健の採択候補の報告をお願いします。

調査員代表

6者の教科書見本本全てを学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、学研の「新みんなの保健」の教科書が、令和6年度使用する教科書としてふさわしいと評価いたしました。

その理由として、大きく4つのポイントについて選定案をもとに説明させていただきます。

みんなの保健3・4年8ページを御覧ください。

ポイント1つめです。選定案の1の1つめの丸についてです。1時間で、8・9・10・11ページを学習する4ページ構成となっています。そして最初のページ8ページに、1、自分の生活を振り返る 2、経験をもとに話し合う 3、学びを生かすと学習の見通しがもてる工夫があります。また、短時間で本時の学習内容への興味関心を高める工夫がみられます。

次に1時間で学習する4ページの構成ですが、最初の8ページが日頃の生活を手掛かりにして、課題に気づくとなり、次の9ページで、自分の生活を振り返って、まず自分で考えます。そして次の10ページで、自分で考えたことをもとに、友だちやみんなと話し合ったり、説明しあったりして、学習を深めていきます。最後11ページで、この1時間の学びを自分の生活に生かすという流れになっています。これは、どの時間でも同じ流れになりますので、この学習を繰り返すことで、思考力・表現力・判断力を身に付けることができます。

次にポイントの2つめです。選定案3つめの丸です。11ページを御覧ください。茶色の罫線のところが学習のふり返しを書く欄になっています。ここに直接書くこともできますし、この二次元コードからアクセスしたワークシートを使って振り返りを書かせることもできます。子どもの実態に応じて使い分けていくことも可能です。また、タブレット端末を使って提出させることで、教師にとっても、評価の資料を手元に残すことができます。このように、子どもたちが日頃使用しているタブレット端末を使って、学びやすいように教科書が作られています。

続きましてポイントの3つめです。選定案6つめの丸です。9ページを御覧ください。このQRコードを子どもたちがタブレット端末で読み取ると、9ページと同じものがタブレット画面に出てきます。タブレット画面で四角のところを指でタッチすると、丸が付き、丸の数に応じて、健康の大きさがどんどん大きくなっていきます。その健康の文字の大小で自分の健康具合がわかり、子どもたちが楽しみながら学習に取り組めます。保健の授業は、3年生4時間、4年生でも4時間、そして5・6年生は各学年で8時間しかありません。いかに興味を持たせ、学んだことを自分の生活に生かしていくかが大切になります。子どもが興味をもちながら学習を進めていくことがとても大切です。続いて、29ページを御覧ください。ここでの学習は、1年生から4年生までの4月の身長がどれだけ伸びたかを調べて、自分の成長を知るとともに、成長には個人差があることを学びます。この学習で、多くの教科書が、このように1年生から4年生までの身長を保健の記録から拾って書き、伸びた身長を計算して求め、それをグラフに書かせるようになっています。先ほど申しましたように、3年生の保健は年間4時間です。この作業をしてグラフが完成したころには1時間の授業が終わってしまう子どもがいることが予想できます。学研のみが、29ページにある2次元コード読み込み、1年生から4年生までの身長の記録を打ち込めば、グラフを作成できるデジタルコンテンツが載せられていました。グラフは5分もあれば完成します。他の単元でも二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツが、とても充実しており、子どもたちが興味をもって、学習に取り組んだり、学びを深めたりできます。それだけでなく、今、御説明させていただいたグラフのように、効率よく学習のねらいに迫ることができるように工夫されています。

続きまして、2 使用上の便宜に移らせていただきます。ポイント4つめとして通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童への配慮という点から、説明させていただきます。2の2つめの丸ですが、1時間で扱う学習内容も、資料の量も適切です。紙面に余裕があって、ごちゃごちゃしておらず見やすいです。大きめのイラストや写真を使っており、子どもたちにインパクトを与えることができたり、わかりやすくなったりしています。文字が多すぎないところも工夫され

ています。

続きまして「使用上の便宜」の3つめの丸です。30ページ、31ページを御覧ください。学研の教科書は記入欄が大きく、自分の意見がたくさん書けるようになっています。この記入欄にアンダーラインの配慮があることで、文字の位置取りに困り感をもつ子どもは、ぐっと書きやすくなります。30ページの記入欄を御覧ください。ここには、上の4人の子どもの身長が大きく伸びている時期を書き込むのですが、記入欄に既に4人の子どもの名前が書かれています。このことは、書くことに抵抗がある子どもにとっては、とても取り組みやすくなります。

以上の点から、学研の保健の教科書が、令和6年度使用する教科書としてふさわしいと評価いたしました。以上で説明を終わらせていただきます。

森教育長

はい、ありがとうございました。御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

富田委員

よろしいですか。保健の授業の中で、おそらく世間的にもよく話題になって、先生も気にされるころというのは性教育の部分だと思うんですけど、教科書としての書き方で、特に今回推薦される学研はどのように良いとかありますか。

調査員代表

性教育の部分として4年生で、32ページから始まるのですが、初経のことですとか、声変わりのことですとか、精通ですとか、4年生で学習することになります。どこまで扱っていくのかということについては、非常に丁寧に説明してあるというか、私たちが授業するのであれば、これを読んで授業したいなというぐらい丁寧に説明してある教科書もあります。ただ、それを子どもに読ませるのかということについては、先ほど言ったやっぱり、子どもに対してわかりやすくという点では学研が量的にいいなというふうに思ったのが1つです。

それから、38ページを御覧ください。ここで初経が起こった時期というので小5の時、中3の時、同じく精通が起こった時期として小5の時、高1の時と書いてあります。ここは、さらっと書いてあるんですが、先ほど言ったように詳しいところは、初経が例えば4年生になった子は、棒グラフに全て表してあるんです。それは丁寧でいいようなんですが、自分が例えば、小学校4年生で生理になったと、それを見た時、ええ、これだけしかいないのということ、個人差を詳しく知ることによって、逆に子どもらが、こんなにたくさん生理になっているのが普通なのに私はまだというふうに思うけれども、学研の書き方は、幅があるよというのはこの吹き出しで示されますが、そこにとどまっているので、逆に子どもたちは、大丈夫だなというふうに思って、こちらの方が子どもたちにとっては学習しやすいだろうなど性教育のところでは思います。

富田委員

今、おっしゃっていただいたようなことが、わかりやすく比較できるようなところは。

調査員代表

ちょっと待ってくださいね。大修館書店の33ページを御覧ください。これが東書の38ページの吹き出し4つのものに対して、グラフが、例えば、9歳に10人、1916人中10人ですよとか、やっぱり3年生ぐらいいでも体の大きい子は初経を迎えるんで、そのときに、これを見た時にね。まあ、早くて良かったと思うかもしれないんですけど、複雑かなというふうなことを思いました。

富田委員

はい、ありがとうございます。

森教育長

他、どうですか。よろしく申し上げます。

田村委員

最近注目されがちな心の性の多様性のこと、学研の教科書、3・4年のところで少し触れてあったんですけど、そのへんは、全部の教科書の比較の中で、そこもされたのでしょうか。

調査員代表

はい、性の多様性については、どの教科書も触れていました。えっと、これは学研ではなかったのですが、東京書籍だけが性の多様性のところで、例えば、学研の38ページを御覧ください。学研の38ページのところに、思春期になると心の変化が起こります、異性への関心が高まり、異性のことが気になったり、仲良くしたいという気持ちが強くなったりする人もいますというところで、最後に、でもそういうことについても個人差がありますよというふうな表記がしてあります。そして、45ページ、同じく学研の教科書の45ページを御覧ください。45ページの資料で、この性の多様性というところについて扱うようになっていて、身近な人に相談しましょうと、保健の先生に相談しましょうとなってますが、身近な人に相談しにくい時は、この窓口のところに相談できますよというアナウンスがしてあります。東京書籍だけはこの異性、えっとね、この表記がもっと幅をもたした、異性だけじゃなく、異性や他の人にとという表記がしてあるというところは、東京書籍のいいところだなというふうには思いました。ただ、どの教科書も学習するページにそこまで詳しくは書いてないけれども、資料のところで今言った45ページのような形で、性の多様性については取り扱っていました。

田村委員

これを教えるの、難しいですね。

調査員代表

難しいです。実際、今4年生ぐらいから初経も始まるし、なので先に教えておかないといけないので教えますけれども、やっぱりまだ幼い、性の関して幼い子どもたちはこうなんていうか、はやしたてるといいのでしょうか、そこらへんをそうじゃなくてというところで学習していくというのは多分1人じゃ難しいので、やっぱり養護教諭と相談

しながら、もしくは、2人体制で授業を行っています。

森教育長

はい。それでは、協議にうつります。ありがとうございました。

森教育長

はい。それでは教科書採択について、御意見をお願いします。

田村委員

今の説明を伺って、もともとの調査報告書を見ても、はっきり言って圧倒的だと思いますし、あらゆることへの配慮がされているし、確認できましたので、学研の保健でよろしいかと思えます。

森教育長

はい、よろしいですか。それでは、学研の「新みんなの保健」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

はい、それでは、津市教育委員会として、学研の「新みんなの保健」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定します。

それでは、最後、道徳についての協議に入ります。よろしくお願ひします。

【道徳】

森教育長

それでは、調査員代表より、道徳の採択について、報告をお願いします。

調査員代表

伊藤です。どうぞよろしくお願ひいたします。道徳ですけれども、6者の教科用図書見本本を調査検討した結果、日本文教出版の「小学道徳生きる力」が令和6年度使用する教科書として最もふさわしいと評価しました。その理由として、大きく6つのポイントについて説明させていただきます。

まず1つめですが、冒頭にリード文が効果的に掲載されており、さらに主な登場人物がイラスト付きで掲載されているという点です。このことによって授業の開始時に子どもたちが教材についての興味関心を持ち、また、登場人物を把握したうえで読み進めることができると考えます。実際に、4年生の本、48ページ、6年生の本、72ページを御覧ください。このようなリード文や登場人物が掲載されていることで、どのようなことについて考えたらいいかかが明確となり興味関心が高まったり、どのような話なのか、子どもたちの理解を助けたりする効果が期待できます。そして、それらに基づいて、児童一人一人が道徳的価値について理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自己を見つめたりするなどの時間の確保や、子どもたちの意見交流などの時間確保にもつながることが期待されます。

2つめですが、どの教材も導入時に、考えてみよう、見つめよう、生かそうの同じパターンで構成されているということです。先ほどの4年生の本、48ページ、51ページを御覧ください。導入発問、中心発問、自分の身の回りに目を向けさせる等の発問というように同じパターンになっていることで、児童一人一人が、学習の見通しを持ち、取り組みやすくなっていると考えます。

3つめですが、二次元コードが全ての教材に付属しており、読み上げ音声やアニメーション、写真や動画などの関連資料などを個々に活用することができるということです。このことで、事前の家庭学習や、興味関心に応じて学習を深めることができ、個別最適な学びに通じると考えます。特に、読み上げ音声やアニメーションがあることで、例えば、事前の家庭学習において学習内容をしっかりと理解した上で授業に臨むことができるなど、今、言われています、授業と家庭学習の連動にも大いにつながると考えます。

4つめですが、児童の日常生活にあり得るような情報モラルの教材が各学年の発達段階を考慮しながら掲載されており、そのすぐ後に、心のベンチとしてコラムが組み合わされていることです。例えば、5年生の本の148ページから153ページを御覧ください。メールについての教材の後に、心のベンチとしてSNSとの付き合い方が組み合わされているように、教材で学習したすぐ後に、心のベンチが用意されていることで、児童が情報との向き合い方について、より主体的に深く考えることができ、情報活用についての能力の育成が大いに期待できます。

5つめですが、年間3回、各学期に1回の頻度で、いじめ防止ユニットとして、いじめ防止に係る教材が配置されているということです。3年生の本の目次を御覧ください。色を変えて、人とのかかわり①、②、③というかたちで掲載されています。このような扱いがされていますのは、日本文教出版だけであり、大きな特徴といえます。絶対に許されないいじめについて、日常の学校生活において様々な面で考え取り組む必要がありますが、道徳において改めて、各学期に1回、定期的に考える機会をつくり出すことで、いじめ防止につながる素地を養う一助となることが期待できます。

6つめですが、付属の別冊ノートがついているということです。この付属ノートの扱いについて、ノートがあるために、必要以上の負担が児童にかかるのではないかなどについて調査委員会でも大いに議論いたしました。現状、すでに市販のノートを使っている学校もあると聞いています。6年生の付属ノート2ページを御覧ください。このように付属ノートは毎時間、上段には大きな枠、下段にはリード線が引かれているというような全て同じ形式になっていてわかりやすく、また、問いが書かれていないシンプルなつくりになっています。絵を描いたり、考えや感想を文で書いたりするなど、内容を適宜工夫したり、また、二次元コードを読み取ることで、タブレット端末で活用したりするなど、児童や学級の実態に応じて使い方が工夫できるものです。1年生の付属ノート、2ページから11ページを御覧ください。1年生では、1学期は文字の記入が必要なく、丸を書いたり、色を塗ったりする構成にするなど発達段階に合わせた工夫もされています。このような点から、この付属のノートは利用しやすく、学習を円滑に

進めるための一助になると考えました。

以上のような6つのポイントを総合的に判断し、日本文教出版の「小学道徳生きる力」を選定案として提案させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

森教育長

はい、ありがとうございました。御質問、御意見よろしいですか。

富田委員

道徳が教科化されて、最初の教科書選定に関わらせていただきましたけども、その時にやはり議論になったのは、道徳の学びにおいて、いろんな感じ方や考え方を想定するんですけど、できるだけこう縛らないというのがいいだろうというふうな話があって。このノートもその1つで、これは、先生の負担になると同時に、子どもたちの個々の状況に合わせて、先生方がそれぞれに作られていったほうがいいんじゃないかという話になって。ノートがあるものが、以前はもっとあったと思うんですけど、今回これだけになったんですよ。ノートがあるものは、まず避けられたような記憶がありますし、やはり、そのリード文とかそういったところ、ある程度あらかじめ内容にふれる前に方向づけていくようなものは極力ないものがないみたいな、そういう議論だったように記憶しています。今回そういう議論をたくさんされたと思うんですけども、もう一度、議論の様子を聞かせていただけたらと思います。

調査員代表

実際、津市で使っているのは学研なのですが、学研のこの出版社の特徴としまして、例えば、主題名が学研は書かれていないんです。そのあたりについては、現在使っておりますので、主題名がないということで、逆に子どもたちは考えるというような意見がありました。それから、学研の特長であるんですが、文章の途中が吹き出しになっていて、空いている分とか、あるいは、話の終わりまで書かれていなくて、途中で終わっている。これはある意味、今おっしゃった、子どもたちが考え、想像していくという部分には適していて、いいねという

話も実際されております。ただ今回、道徳というのは、そういうのを大事にしていくということもあるんですが、ある程度子どもたちに、考える内容は膨らませなきゃいけないと思うんですが、ある程度の何をするかということを示していくという部分では、リード文とか、そういうものがあるのも一つじゃないかというような話がありました。道徳の中で一番大事なものは当然考えるとか、自分はどうだろうとか、そういう部分が求められるんですけども、話の内容がどうだとか、考えるところまでたどり着くまでを極力短く、そして考える部分を膨らませたいというふうなことを考えますと、一つの理由だけではないんですけども、朗読があるとか、アニメーションがあり理解もできるし、そして、子どもたちもいろんな子がおりますから、見通しを持つという部分では、ぼやっとこういう話なのかというふうなのがあった方がいいんじゃないかということで議論させていただき、最終的に今提案させていただいているような形でございます。

富田委員

道徳が教科化されたときに、やっぱり、それ自体、非常に不安なことであったし、この間、ずっと教育実践を積み重ねられて、どのようにしたら授業が展開でき学びが深められるとか、ぼやっとしていても評価がつけられないような現場の声がある中で、今回、変えようという話になったということですか。

調査員代表

はい。

田村委員

子どもたちにということで考えると、来年度から変わるということは、例えば、6年生なら、5年間、学研の教科書で、最終学年になってから、教科書自体が変わる。慣れたものから、別の教科書に変わるというその影響はどうでしょうか。

調査員代表

やはり、使っている教科書、同じ方が、パターンが同じですので、

そういう面では、子どもたちの戸惑いも少ないかなということで、調査委員会の方でも、やはり、まず見るのは学研の教科書見て、どうだろうということを見せていただきました。6者ありますので、他も見るとは思いますが、学研を中心に考えたんですけども、先ほど申しあげましたように特に今回、この日本文教出版ということで、調査委員会の方で、特に大きかったのは先ほどからありますように主題が書かれていないよりは、やっぱり同じ方向を向いたほうがいいかなということと、その朗読もあるんですけども、先ほど、見ていただいた4年生の48ページ、雨のバス停留所でもありますように、どの教材にも挿し絵がある時に、その登場人物がそのまま抜かれているとか、こういう部分というのが、今使っている教科書とは違って、これの方が話の内容の理解が得られるのではないかということと、それからノートもございます。それからQRコードで、朗読を聞くと、要は理解の部分ということに調査委員会の方では重点を置いて、そこまでのたどりつく部分をなるべく短くしたい。子どもたちに話を理解してもらおう方がいいだろうというふうなことで、今回こういう案を出させていただいています。

田村委員

もう1つ、よろしいですか。今まで採用してきた教科書は、それなりの評価があつてやってこられて、あえて申しあげると今回の提案にあたって、学研さんが手を抜いたとは思えない、当然一生懸命やってこられたけども、それよりも優れたところがあつて、これ、何が要因かなと考えてしまったんですけど、それを先ほどから、その道德の授業というのは実際にずっと重ねてきて、年数を、そういう中で現場としての見方が少しかうあるべきぐらいから、あるいはこういうふうにしていったほうがいいんじゃないかというふうに、ちょっと思考が変わってきた部分があるのか、それか、単純に他の会社はめっちゃくちゃ頑張ってきて、いろんな新しいことを盛り込んできたということが調査結果に結びついたのか、どのようにお考えなんでしょうか。

調査員代表

はい、順位をつけるわけじゃないんですけども、今、使っていたと

いうのもあるんですが、それを抜いてもやはり学研の教科書も非常に使い勝手が良いものだなというふうな意見は実は出ておりました。その中で、先ほど申し上げましたように、学研の特長としましては、主題が書かれていないというのもそうですし、最初の部分で話し合いツールとか、やり方とかそういうのも明確に各学年されているとか、というふうな形で、この6者ともそれぞれに特長があって良いので、間違いないなというふうな話にはなっておりました。ただ、繰り返しになるんですが先ほどから申し上げているような部分で、ちょっと日本文教出版が総合的に見ると、例えば大きく違うのは学研さんは手をぬいたとかそういうことじゃないんですが、朗読が全部されているかという、そうではないんですが、そういう部分というのはやはり何よりも考える力とか考える時間とかそういうことを確保したいという調査員の話でみると、例えば学研さんと日本文教出版を比べるとそういう部分が大きく違うというふうなところで出ましたので、決して学研がだめなんだとか、そういうふうな話ではなくて、本当に悩みました。

山口委員

あらためて道徳の教科書をしっかり見させていただいたんですけど、すごく文章量が多くて、読ませるものになっている。その上で、考えさせるとおっしゃったんですけど、今の話をお聞きしていると、この読解力というところで、子どもたちが、何かしら変化してきている、落ちてきているみたいな形でこう読み上げるものであるとか、こう目的がはっきりしているところであるとか、現場に必要なようになってきたということなんでしょうか。

調査員代表

私自身は自分の経験も含めてなんですが、読み取りを教科書を使ってやりますと、当然、まず内容を理解しなきゃいけない。自分の反省でもあるんですが、どうしてもそこに時間がかかるということになるんです。時代の流れと言っているのかどうかわかりませんが、このタブレットとかそういうものを使えるようになりまして、QRコードが出てきて、それに読むというのをに入れてもらってやると子どもたちは

音で聞いて理解ができる、そこをなんとか短くしたいというのは、自分がやっていた時も思いながらも、なかなかできなく、いろいろな工夫をしたんですが、その読み取る力が落ちてきているとかそういうことではなく、前からこういう読み物をする時の、国語と道徳では目的が違いますので、この道徳の大事にしていくことを考えたときに、そこをなんとか短くできる、それが今回、入っていたということです。

森教育長

いいですか。話を聞いていて、よくわかります。僕は変えていいかなと思います。読み上げのことも、いじめのこともそうだし、別冊ノートの考えもそうだし、よくわかったんですけど。最後に1つ確認したいのは、道徳で大事なものは教材だと思うんです。つまり、内容項目は19から22で教えることが決まっていますけど、それに関わって、どんな教材を載せるかっていうのは、光村もそう、学研もそう、それぞれで同じものではないやないですか。けれど、自分が教えとった時、やっぱり子どもにインパクトというか、インパクトがある教材というのをやっぱり探すというか、例えば、生命の尊さっていうあの内容項目を教える時に、これってすごいやっぱり出す教材によって、全然違うじゃないですか。子どもが命の大切さについて考える、その出てくる教材によって全然違うと思うんですけど。その教材はこの日本文教が一番良かったっていうところがあれば何もいうことはありません。

つまり一番言いたいのは、いろんな中身、教え方とかはあるんだけど、ここに取り上げられた、一つ一つの内容項目についての教材が日本文教が一番良かったって言ってもらったら、僕はそれが一番いいと思う。その話がなかったの。手立てとか、やり方とかの話だったけど、僕は一番大事なのは中身やと思う。子どもが読んだ時に、この話はいいよなと思う話がどれだけ載っとるかとは自分は思う。

調査員代表

全部の数を数えたわけじゃないです。調査員の中で聞くと、それこそ定番という言葉はあまりよろしくはないんですが、例えば1年生のはしの上おおかみですね。6年生のロレンゾの友達とか、結構前から

こう言われているようなものも入っているということで、全部を見たわけではないんですが、大事にしたい教材は入っているかどうかという事は、確認させていただいています。

森教育長

はい、ありがとうございました。この後、採択について協議をしますので、調査員代表、ありがとうございました。

それでは御意見をお願いします。

西口委員

道徳の授業で、一番大事になるのが、資料をいかに早くつかませるかということで、これは先ほど、先生が言われた通りなんです。ずっと、こう、「雨の停留所」のこと話されましたけれども、それが一番つかめるのは、私はこの日本文教出版だなということを思いました。もう一つ、「雨の停留所」で、学んだことをいかに自分の生活に戻していけるかということが次に大事になると思うんですが、最後の、見つけよう、生かそうというところの視点が日本文教出版は、はっきりしているということを思いました。学研はどうしても心の読み取りのような感じがします。決まりやマナーはなぜ必要なのかとか、どんなことを考えていくのだろうかというようなことになっているので、なかなか先ほど言われたように読解に陥ってしまって、一時間終わっていくような気がするので、やっぱり本来の道徳の授業にもっていくのであれば、今回変えた方がいいのではないかと思います。

富田委員

道徳の授業は、うちの子どもに聞いてもすごく嫌いな授業だと、何がしたいのかよくわからないというところで、全然、積み重ならずに終わっていくという感じが子どもから見てもあるのかなと思うんです。例えば、僕はあの4年生の花咲山ってね、この話、好きなんですけど。それが結構紹介されてて、やはり、実際に授業をしていくなかでは、道徳が教科化されたときには、いろいろ子どもを縛るとか、方向付けるといふところの心配があったので、極力何もない方がいいのかなと思ったんですけど。実際授業とかなんかこう、子どもの中に何

を残すかということを見ると、文教出版のように、これ実際、優しいことをすれば花が咲くというリード文があって、花咲山を知ってますかというふうな吹き出しがあるんです。他のところは例えば、学研では、それはお前が昨日咲かせたかなと書いてあって、東京書籍も美しい心ってだけなんです。光村は、花咲山ってどんな山。また別の方向に興味がいきそうになったりして、ある程度、やはり集団の中で、何かしら共通の認識を持って議論し合うというふうなことをやはり学べる、深める上で必要だと思うし、道徳が教科化されたなら、やはりそういうふうなものが教材として必要なのかなと思います。ですので、文教出版というところ、説明された中で、納得いくものがあったかなというふうに思います。

田村委員

すごい説得力ある説明をいただいたなど。関係ないかもしれないんですけど、ちょっとだけ気になるのは、あの先ほど保健の教科書は学研で、結構道徳で教えることと重なることはありますよね、SNSの使い方、保健で気をつけようねと教えていることと、いわゆる差別とかに繋がることがあるよって道徳で多分、教えることがあると思います。あるいは、先ほどちょっと申し上げた、性の多様性のところとかも、道徳にもつながるところがあり、これがその教科書会社が変わることによって別に影響はないんだろうなとは思いつつ、ちょっとたまたま前が学研でしたので、そこだけ気になりましたけど、今の内容でしたら、かえることも是としたいというふうに思います。

森教育長

はい、よろしいですか。はい、それでは、日文の「小学道徳生きる力」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

それでは、津市教育委員会として、日文の「小学道徳生きる力」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定します。

本日の審議は以上となります。ありがとうございました。次は8月29日火曜日9時から行いますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。